

お知らせ

○9月15日里山活動体験参加者募集；別紙「ニホンジカとの共生を目指す森づくり」参加者募集案内を里山センターHPに掲載をお願いするとともに、チラシを作成して広く参加者を募集しています。会員の皆様も関心ある知人を誘ってご参加ください。

○次回活動日；既報の通り8月31日（日）は9月15日イベントの準備と打ち合わせです。9月15日参加の方はできるだけご参加ください。

豊英島ニュース

8月6日水曜日、クロムヨウランの花観察のため入林（高塚・真鍋）しましたので、その模様をお伝えします。



開花したクロムヨウラン



千年広場脇にも

2006年4月植生調査中、15cmくらいの針金で作ったような正体不明の植物らしきものを画像に収めた（右画像）何だかわからないまま、半年過ぎたころ、他のランを調べていた時に偶然その物体が前年咲いたクロムヨウランが果実を飛ばした跡だということを知る。“どこで写しましたか”と聞かれても写した場所も思い出せないまま2年が過ぎた。今年はスダジイ林で30株以上の咲いた跡を見つける。何とか花を見たいとの思いが今回やっとかなった。1cmに満たないような小さな花ですが、画像を拡大してみると、まぎれもなくランの花です。図鑑にも“朝咲くらしい…”と生態がはっきりしないような感じですが、下記のようなURLを見つけましたので参考までに。（高塚記）



<http://ryos.info/hino/kind/mystery1.htm>

クロムヨウランは葉も葉緑素もなく自ら光合成しない「腐生植物」の一種です。千葉県RDBではB:「重要保護植物」に、環境省RDBではDD:「情報不足」にランクされています。（真鍋記）

日照り続きで豊英湖の水位は下がり、中洲ができていました。今年巣立ったトビは、古来のモミの木に里帰りしていました。外界の猛暑がウソのように豊英島の森は涼しく、ジャコウアゲハやムラサキシジミなどの蝶や、ニイゼミやアブラゼミ、小鳥やフクロウなど、森の生きものたちは元気でした。今年金網で保護されたツチアケビ4株は実が真っ赤に熟していました。7月に千年広場南（杭10-9地点）で発見されたツチアケビ1株は実も茎も何者か食べられ無残な姿に、保護の必要性が実証されました。（真鍋記）



豊英湖に中洲



トビの里帰り



ムラサキシジミ



熟したツチアケビの実

ツチアケビについて次ページ「きのこを食べる植物」をご覧ください。

きのこを食べる植物—ツチアケビ

ツチアケビはラン科ツチアケビ属に所属する腐生植物です。光合成をしない葉は退化して小さくなり、鱗のように茎に着いています。ツチアケビの場合、キノコ「ナラタケ」がある所にしか生育できないのです。彼らツチアケビの生活はユニークです。まず、ナラタケの菌糸がツチアケビの根に侵入して栄養分をとろうとします。しかし逆にツチアケビがナラタケの菌糸から栄養を奪い取ってしまいます。右の絵はツチアケビがナラタケを食べている場面です。地上に見える赤いソーセージのようなものがツチアケビの実、地中に伸びた白いものがツチアケビの根、枯れ木の上に見えるのがナラタケです。



(画像は千葉県立中央博物館の展示パネルを撮影させていただきました。文章は展示解説文を参考にしました。)

豊英島のツチアケビの近くには、秋のきのこ観察会するとき
たくさんのナラタケがありました
近くにあるナラタケの菌糸と、保護金網のおかげで
ツチアケビは今年見事にソーセージ状の実を实らせました
ツチアケビもツチアケビが好きなニホンジカも、
ナラタケもナラタケが好きな人間たちも
みんな森の仲間です